

図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和 6 年 10 月 30 日 (水) 午前 10 時半～12 時
- 2 場所 小竹図書館 2 階 会議室
- 3 出席者 利用者 12 名
図書館 4 名
(小竹図書館長、副館長、業務責任者、副業務責任者)
- 4 テーマ 「私が小竹図書館に望むこと」
- 5 配布資料 (1)次第
(2)図書館利用案内
(3)令和 6 年版練馬区教育要覧
(4)「これからの図書館構想」(抜粋)
(5)練馬区立図書館報「図書館だより」
(6)小竹図書館広報誌「すてんどぐらす」
(7)小竹図書館 中学生・高校生用図書館だより「たけのこ通信」
(8)イベント (11 月～開催予定) のご案内
(9)アンケート用紙
- 6 次第 (1)小竹図書館長挨拶
(2)図書館員紹介
(3)参加者自己紹介
(4)小竹図書館について
(5)懇談会テーマ：「私が小竹図書館に望むこと」
(6)質疑応答

1 小竹図書館長挨拶

本日は小竹図書館にお越しいただきありがとうございます。令和 6 年度図書館利用者との懇談会を開催いたします。

小竹図書館の館長の中嶋と申します。よろしくお願いします。

小竹図書館は平成 26 年度より指定管理者制度が導入され、私たちハートフルサポート共同事業体が図書館の運営と施設管理をさせていただくようになりました。

指定管理とは何かといいますと、これまで区の職員さんがやっていた仕事を、民間に任せるという制度です。

ハートフルサポート共同事業体は、NTT グループのテルウェル東日本と練馬区に本社を置く五十嵐商会からなる団体で、図書館の運営管理については代表企業のテルウェル東日本が、施設管理に関しては五十嵐商会が担当し、今年で 11 年目になります。今後ともよろしくをお願いします。

2 図書館員紹介

副館長、業務責任者、副業務責任者

3 参加者の自己紹介

4-小竹図書館について

今日のテーマは「私が小竹図書館に望むこと」ですので、それについて話し合っていきたいのですが、その前に小竹図書館の現状について軽くお話しします。

こちらの資料（教育要覧の抜粋版）を見ていただいてもわかることですが、小竹図書館は平成2年7月に練馬区で8番目の図書館として誕生し、今年で開館34年、来年は35周年を迎えます。

基本理念は「知る喜びを暮らしの中に、みんなが集う憩いの図書館」ということで、地域に根ざして、地域と積極的に関わって、区民の誰もが気軽に利用できる図書館を目指しております。

現在、当館にある資料は図書が84,000、雑誌が2,300、CDなどの視聴覚資料が8,000、合計94,300付近で上下しています。上下とはどういうことかということ、新刊が入ってきたり、あるいは除籍といって役目を終えた本をリサイクルに回したりしているからです。

年間の来館者数は約206,000人。こちらの資料の統計は令和5年度の実績ですが、令和5年度でいうと、316日開館していますので、一日あたりに換算すると約650人来られたことになります。

もちろん季節や天候によって移り変わりがあり、一番の繁忙期といえば夏休みです。夏休み期間中はお子さんの利用が増えますので、1日の入館者が1000人を超える日もあります。反対に冬、雨が降っている日は400人程度と、ぐっと入館者が減ります。

年間の個人の貸出者数は、116,500人です。コロナ禍の最中は、制限があったので減っていましたが、コロナ前の令和元年度の実績が119,000だったので、現在ではほぼ前に戻ったと感じています。

個人の貸出点数は375,000です。

これは当館だけでなく、多くの公共図書館でいえることですが、年々貸出点数が減ってきたというデータが出ています。当館でいえば平成27年度は41万点でしたので、だいぶ減っています。理由はいろいろありますが、廃刊になる雑誌が多いので雑誌の貸出そのものが減っていること、月額使用料を払えばネットで自由に雑誌や本が読める時代になったことも一因でしょう。そこで、どうやったら地域の人々を図書館に引き寄せ、貸出数を増やせるかということについても、皆さまのお知恵を借りながら、一緒に考えたいと思います。

練馬区立図書館では図書館の基本機能である読書活動支援を土台にしながら、近年の社会

情勢の変化も踏まえて新しい図書館機能も必要との考えから、これからの図書館理念のおおむね十年後の将来像をにらんで、その実現に向けたコンセプトを示した「これからの図書館構想」を昨年4月に施行しました。

ここには理念として「世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠点」をかかげて、目指す将来像を4つに分け、それぞれのコンセプトと、さらにはその施策としてどんなことに取り組んでいったら良いかというイメージを10項目に細分化して説明しています。

すべてを一挙に成し遂げるのはとても難しいのですが、今年度の区立図書館ではコンセプト3の「知が交わり、創造を生み出す」に重点を置いて事業を行うことになっています。

まさにこの懇談会も皆さまから寄せられたいろいろなご意見からヒントをいただいたり、改善策を見つけたりすることができますので、それがこの3番に結びつくのではないかと思います。

地域社会の文化や生涯学習を支える知の基盤であり情報拠点として小竹図書館にどんなことを望まれるのか？ 皆さまお一人ひとりの率直なご意見をお聞きできたらと思っております。

なお本日いただいた貴重なご意見は、施策取り組みのアイディアとして、今後の催し物等に反映していきたいと考えております。

またすぐに着手することは難しくても、将来に向けての図書館運営に活かしていきたいです。ただ、一館だけではやりづらいこともあるので、区立図書館全体に関わるようなことについては、11月22日、光が丘図書館で同様の懇談会が開かれますので、そちらにご出席いただいて、ご質問していただければと思います。

それでは、本日はコンセプト3番の「交流が生まれ、新たな知が創造される」をメインにお話を進めます。「人と人、人と地域のつながりの創出」、「多様なニーズに応える空間の創設」という施策について、ご意見がある方からお願いします。

5 懇談会テーマ「私が小竹図書館に望むこと」

●図書館

例えばうちでいうと、3大学が近くにあるのでもっと学生さんと密にお付き合いして、若い方のいろいろなご意見を聞きたいと思っておりますが、なかなかハードルが高かったりします。日芸（日本大学芸術学部）の学生さんが図書館に来られたり、武蔵野音大の学生さんが小竹図書館でアルバイトしたり、武蔵大学が西武鉄道と組んで熱心に江古田キャンバスプロジェクトに取り組んでいらっしゃるの、そういった活動を通して一部の学生さんとは少し関わっていますが、そこから派生して何かを一緒に創り上げていくということになると、なかなか難しいと言わざるを得ません。

江古田 eco コスゴミゼロプロジェクトには、学生さんも積極的に参加されていると聞いていますが、いかがですか？

●利用者

去年は日芸のコスプレ研究会というのがあって、もう本当にガチでコスプレする子たちが参加して、毎月第4土曜日に江古田 eco コスごみゼロプロジェクトの活動を積極的にやっていましたね。ところが、今年の学生さんは土曜日に授業がある子たちが多くて、参加者が減っているという事情があります。僕らも、そういう地域の学生さんとか商店街の人とか、地域の子どもたちと一緒にやりたいなと思っているのですが、最近やっぱり参加が少し減っているので、どうしたらいいものかというのは、僕たちもちょっと悩んでいるところではありません。

ただ、武蔵大学のキャンパスプロジェクトの方とか、ゼミの方と少しつながりができたので、そういう方たちと一緒に少しずつ盛り上げていって、また公共の施設とうまくつながりながら、一緒に何かできるというのは、すごくいいなと思っています。

●図書館

武蔵大学の前でギャラリーをやってらっしゃる方は、学生さんの動きをどう感じていらっしゃるんですか？

●利用者

やっぱり学生さんはアルバイトとか授業とか、もう本当に忙しくてなかなか来られないんですね。ただゼミの先生と交流ができて、そのゼミの学生さんが少しずつ来られるという感じですね。

学生さんと直接交流するのは本当に難しいものですから、そのあたり、皆さんの知恵を借りることができたらと思います。

●利用者

旭丘には浅間神社っていう神社があります。

昨年、一昨年頃からちょっと交流が生まれて、日芸の学生さんがお神輿を担いでくれるようになって、毎回 15、6 人若い子が来てくれるので、地域住民はすごく助かっているんです。ただ、学生っていうのはやっぱり卒業してしまうから、それが問題です。卒業後、就職してしまうと忙しくなって、引き継ぎとかもなかなかうまくいかず、せっかくの縁が断ち切れてしまうことが少なくありません。せめてお祭りのお神輿ぐらいはなんとか……と思っているのですが。

それで日芸さんだけでなく、武蔵大学とか音大の人も一緒に学生神輿みたいなのが作れたらいいんじゃないかなと、最近考えているんです。

話は変わりますが、こういう小竹図書館のイベント（近々当館で開催するイベントのチラシを持って）も本当に全部行きたいぐらいなんだけど、踏切の向こうに住んでいると、なかなか

か情報が伝わってこないんです。

こういうチラシがいっぱい配られたら、参加したい方はいっぱいいると思うのですが、これは配っていただけてるんでしたっけ？

●図書館

ポスターを町会の掲示板に貼ってもらっています。

●利用者

掲示板が十何箇所しかないからね。

みんな掲示板なんてそんなに一生懸命見ないから、こういうチラシが手元に届いたらすごく良いと思う。町会の会議の時とかに配ってもいいと思う。

●利用者

回覧板みたいなので回すといいかな……。

●利用者

回覧板は、今あんまり誰も見ないもの、それが困るんですよね。

本当にもったいないと思う、これだけあるのに。

●図書館

今、図書館のホームページには出したりしていますが、目的がなかったら、なかなかホームページを開いてまで見ないかも。

●利用者

それを見る人は多分若い人だから、お年寄りはこのチラシが手元にあるのが一番ですよ。

●利用者

この間、何かのイベントの時に、江古田のお店の前で、ゴミ集めをやっていましたけど、どこの学生さんなの？と聞いたら武蔵大学ですって言っていました。

●利用者

やっぱり知らない人って、普段使っている生活道路にゴミが落ちてても、あんまり気づかないんです。でも、いったんゴミ拾いに参加すると、自分の住む街の中にこんなにゴミがあったんだっていう感想を言われます。私は地域の方々にこういった意識を持ってもらいたいなと思って始めたんですね。でも地域でゴミ拾い活動に参加されるのはどうしても年配の方が

中心になるので、できるだけ若い人たちにもこういった活動があることを知ってもらい、次世代につないでいてもらいたい、面白く楽しくやれるといいなという思いでやっています。

●図書館

江古田の駅前のパン屋さんでは、店舗の一部スペースを開放して、交流の場づくりにされていたりしますよね。

●利用者

ベーカリーの隣にレンタルスペースがありまして、そこでいろいろな方にご利用いただいています。

演奏会があったり、それこそ皆さんの懇談会をするような場所であったり、この間も江古田の駅の南口のところで、3大学の学生さんたちのイベントがありましたが、その方たちが演奏前に準備で楽器を鳴らすとか、控え室にするとか、そういったことでとにかく地域の方に使っていただくっていうこと、それから学生さんに使っていただくことを結構大事にしています。

今回は、ハロウィンのイベントで商店街の「江古田はひとつ」という、4商店街が1つにまとまったハロウィンのイベントをやっています。

一つは栄町本通り、それから江古田駅北口商店会、それから江古田銀座商店会さん、それから江古田市場通り商店会の4つが一緒になってやったのですが、そこに今回江古田キャンバスプロジェクトといって、3大学と西武鉄道のチームの方がそこに加わってくれました。その4個所のところにクイズを設けて、最後にその南口の駅前広場でクイズに当たった方たちに、そのキャンバスプロジェクトのキャラクターグッズを配布しまして、約700の方がそのグッズを交換していました。

そのキャラクターも日大芸術学部の学生さんが考えた「こたまる」という名前のキャラクターでして、それも皆さんに投票していただいて選んだキャラなんです。

これから街の中でその「こたまる」が、いろいろな場面に出てくると思うんですね。今日は持ってきていませんでしたが、本当にふっくらした可愛い絵なんです。

グッズも、ファイルとか、それからカンバッジとか、それからステッカーとか、そんなものを配布していましたが、Tシャツも着て配布をしていたので、街行く人たちもあのキャラクターは何？というように関心を持ってくださったりして、そういう学生さんたちが街のイベントや商店街の催しに入ってきてくれるっていうのは、私たち自身にもすごくいい意味で刺激になり、町づくりの活動が活性化されます。

それから今デジタル化が流行っている中で、今度、11月の2日と3日にパン散歩のイベントをやります。武蔵大学ボランティアチームの方たちが今回お手伝いしてくれます。

受付だけではなくて、それぞれのパン屋さんでインスタグラムで皆さんに発信していくということを今回初めてやりますので、とにかく学生さんたちにはどんどん街に入ってきていた

だきたいなというふうに思っております。

●利用者

江古田キャンバスプロジェクトの件でちょっと補足なんですけど、北口のエスカレーターから見て、ジンギスカン屋さんの裏に細長い道があるんですけど、そこで学生さんたちが子どもたちに絵を描いてもらって、それを貼って大きな絵にするというようなイベントを行うのと、2日の日は武蔵大学の中でキャンドル作りのワークショップを行います。そのキャンドル作りのワークショップを行った頃に、12月に今度は日芸のところでそのキャンドルを灯してクリスマスのコンサートが開催されます。そこまでの道筋ができていますイベントなので、皆様もぜひお時間があったら確認して下さい。

●図書館

不勉強ながら江古田ハロウィンについては知らなかったです。
渋谷区などはハロウィンの集まりに関して厳しくなったようですが、江古田はウェルカムなんですか。

●利用者

はい、商店街で「江古田はひとつ」という、企画というかチームがあって、毎年ハロウィンはその時期にやっております。

4カ所の商店街が関わっているんですけど、もっといろんな商店街に入っていて、広めたいと考えています。

その一つがスタンプラリーですが、お子さんたちが仮装きて、そこでスタンプとお菓子の交換、商店街では、独自にお菓子を配るお店もあって、そういうお店屋さんもいくつかあの地図に出ておりました。

人数がどのくらいだったかという今記憶が不確かですが、各4カ所に380枚のチラシを置いていましたので、まあ1000人弱くらいでしょうか……。

●利用者

親御さんを入れると750個ぐらいの景品交換があったそうなんですけど、その3倍ぐらいの人数は来てるんじゃないか。おおよそで親子で2000人ぐらいの動員かな。

●図書館

学生さんと地域とのつながりの話をしてきましたけれど、学生さんだけではなくて、例えば高齢者の方だったり、子育て中の人だったり、いろんな方との地域のつながりが必要だと常日ごろから考えています。

子育て支援の施設を利用される方は主に保護者と赤ちゃんだと思うのですが、そのあたり

をどのように感じていらっしゃいますか？

●利用者

いわゆる産後の育休中の方が来られていて、今お父さんも育休を取られている方が何人かおられて、夫婦でお子さんを連れてきたりという形で来ておられます。

ただ、やはりそういう居場所があるということは、お母さんたちにとってはそこで育児の悩みとかを互いに話して解決して帰っていただいたり、私どもに相談していただいて、こういうこともあるよと促したりして、子育ての役に立っているのかなと思ったりしています。

練馬区は子育てひろばという形ですけども、近隣なので板橋区の方も利用されていて、板橋区の方は児童館にそういうブースがちゃんと分けられ、ちっちゃい子のスペースっていうものがあって、こういう広場的なものは板橋さんにはないので板橋の方からもいらっしゃいます。

江古田の先の豊島区の方からも自転車で来たりしますので、無料で来られて保育士の免許を持っている私どもがサポートしています。

●図書館

利用者さんは増えているんですか。

●利用者

他の区と接していることもあるので、来やすいのかどうかかわからないんですけど、練馬区では一番多いと言われていて、一日にだいたい平均 19 組、多い日で 26 組が 9 時半から 2 時半の間にいらっしゃいます。

ちょっと遠い人もいるので、練馬区の保育基準に全て則って、ご飯とスープなんですけれども、お昼とかも提供しています。

●利用者

当施設は以前の事業者さんから、今年 4 月私どもの法人がやることになりました。

私どもの法人は保育園を 4 園運営しておりますので、ほかのひろばさんに比べますと保育園寄り保育園の情報も分かりやすいひろばになっているのかなって思います。

また、月に 1 回ですが、子ども食堂をやっています。

●図書館

子ども食堂はどういう方が利用されるんですか

●利用者

小学生を対象にして行っているので小学生無料ということで、一応小学生が来てほしいって

いう部分ではあります。

この間で3回目になるんですが、だんだん親御さんも一緒に来て、「こんな所なんだな」ってわかっていただいて、じゃあ今度は子どもを一人で出してみようという方が増えています。なので、その時間帯に仲のいい子同士が来たりして、一応毎回50食を用意しております。

●図書館

予約制ですか？

●利用者

予約制です。ウェブで予約をしていただく形になっております。

●図書館

児童館さんは最近どうですか？ 利用されるお子さんの数というのは？

●利用者

やっぱり育休中の方がすごく多いので、児童館ってちょっと前までは2、3歳の親子サークル、自主サークルみたいな感じのものを作って活動することがどこの児童館でもあったんですけど、今はやっぱり育休を取られて復帰される方が多いので、ほとんどが0歳のベビーちゃんを連れて来る方が多いですね。なので、ベビーちゃん向けのフォトスタジオっていう感じで季節の背景とか、小物を使って自由に写真を撮れたりとか、手形足形ペタッっていうのを毎月やっています。毎月やっているとそこで他のお母さんとか、お父さんと知り合いになって、お互いに成長してきたなとかって、少し交流が持てるので。ただやっぱり11月で育休終わりなんですっていう方が結構いらっしゃっているので、今は保育園の申請の話題とかが多いですね。

この間うちもハロウィンのイベントで、赤ちゃんを連れて近くを回りました。

うちの施設と敬老館さんと保育園さんと、ちょっと外に出て回ったりして、その時は2、3歳の子が多くて、普段はあんまり見かけない子たちも一生懸命お家から仮装してきてくれておじいちゃん、おばあちゃんに笑顔を振りまいていました。30組ぐらいその時は集まったので、普段児童館だとリトミックとか、そういう講師の先生が来る行事は2、30組集まったりするんですけど、職員がやる工作とかだと10組とか、そんなに多くはなかったりするんで、この地域はいろいろな子育て支援が充実しているのもあって、皆さん選んで来てくださっているかなって思っていますね。

うちも申し遅れましたが、令和8年には旭丘の小中一貫校の中に移転するので（参加者自己紹介時に上がっていた話題）包括支援センターさんと同じ形になるので、児童館は児童館でそのまま機能としては残って、あとはひろばと学童クラブが、委託になることにはなっていますが、児童館が委託になるかどうかまだわからないという段階です。

●図書館

敬老館さんはどうですか？ いろいろとイベントかなりやってらっしゃるようなんですけど、目指してる施設運営とかはどのようにお考えですか？

●利用者

私はまだ経験が浅いのですが、先ほど言った体操や音楽系の講座が好評です。また、地域包括支援センターさんからお話ありました「みんなで語って聞こうの会」という本人ミーティングを月1回と、毎年の定期的な継続の講座を中心に行っています。そちらにずっと通ってくる方もいらっしゃいますし、ここ1年で新しく来てくださった方もいたりします。最近家族の方に敬老館を紹介されて、ご夫婦でいらっしゃる方も増えているなという印象です。敬老館も児童館さんと包括支援センターさんと一緒に令和8年度から旭丘小中一貫校の方に先ほどおっしゃっていたケアカフェという形で機能転換します。今は事業が多い敬老館ですが、カフェというやっぱり休憩どころというか、自由に使えるスペースということなので、多少形は変わってくるかなと思うのですが、機能の一部が残るという感じで移管する予定です。ご利用者さんにもようやく、そのことを言葉で直接伝えられるような状況にはなっています。反応は家から近くなったという方もいらっしゃれば、敬老館の家庭的な雰囲気がなくなっちゃうのかなと言われる方もいるという人もいます。ただ皆さんも、前からわかっていたというところもあるので、そこまで大きな混乱はありません。

あとは、利用者数に関しては、少なくともはなってきたかなというところがあります。それは、事業数が少なくなっているという点もあるんですけども、皆さんやっぱり平均年齢が上がってきているっていうこともありまして、当敬老館は階段で登らなければならないので、どうしても自分で階段を登れる方が通う場所になってしまっているんですよね。

エレベーターを付けるっていうこともできないですし、そこはずっと課題になっています。

●利用者

うちの主人は「階段はリハビリだから、階段をどんどん上がっていく」って言うんですよ。今度敬老館で絵本の読み聞かせの講座がありますが、私も最初の時に受けて、おかげさまで、保育園2カ所で小さい子どもさんとも会えました。ただ、絵本を選ぶのがすごく難しくて、読むのはいいんですが、本を選ぶ段になると、ちょっと大変だったなって思いました。また、3歳児と4歳児でも、1歳違うとかなり理解力や反応が違うんですよね。そういう勉強もさせていただきました。

●利用者

今年度の絵本の読み聞かせ講座では、最終回時に、駅前の保育園さんで発表会をさせてもらう予定です。

もし周りの方々に絵本の読み聞かせに興味がある方がいらっしゃいましたら、まだ人数に余裕がありますので、お声をかけていただけるとうれしいです。

先ほどその階段を登ってという話をしましたが、やっぱり元気なご利用者さんがすごく多いです。活発な方が多いのが当敬老館の特徴かなと思っています。

●図書館

皆さんのお話を伺っていると、今は、ちょっとお話したり相談したりするなど、居場所づくりをそれぞれの施設が工夫されているように感じました。

図書館も、以前は本を所蔵して本の貸し出しと返却をするだけの場所というイメージが強かったと思いますが、社会情勢やみなさんの要求が変わっていますので、いろんなイベントを実施したりして、いろいろな方に利用していただけるように工夫しています。今現在は、例えば引きこもりの子どもの居場所づくりを図書館でできないかというご意見が出たりもしています。ただ、当館は狭いので、適切な場所がなく、もしやるとすればこの会議室になりますが、普段は開放して本を読んだり調べものなどで使っていただいていますので、実施できても月に1回程度かなと思います。

もちろん引きこもりの子どもだけではなく、大人に向けても同様な支援が必要かもしれません。例えば配偶者をなくした高齢者が引きこもり状態になったとき、趣味の仲間がいればいくらか慰められるかもしれません。当館でも古布や布の端切れでブックカバーを作るイベントを実施したのですが、すごく申し込みが多かったです。知らない人と隣り合わせに座って、わからないところをちょっと聞く、そうこうしながら世間話をして交流が生まれたりし、参加者から楽しかったと言う声がいくつか寄せられました。

布の絵本はボランティアの方々が集まって製作されていますが、皆さんどんな感じですか？好きな趣味がボランティアに繋がっていて良いですね。

●利用者

そうですね。結構皆さん意欲的に取り組んでいます。ただ、最近は若い人たちの感性が違ってきていると感じるところもあります。私たちボランティアは年代が結構上なので。

布の絵本で製作するものには、図書館にある児童書、赤ちゃんの絵本から低学年ぐらいまでのものが多いです。出版社に著作権の許諾を得た上で作らせていただいているんですけど、中には厳しい会社もありますね。原本に忠実に作るというのが結構厳しかったりもします。ボランティアはみんな同じ気持ちなんですけど、もっと自由に絵本というか、紙の平面から布になって立体になって、そこから物語が湧いてくるようなものを想像したいとか、大それたことも考えたりしています。子どもたちも布の絵本を手取るのはうれしいらしくて、たくさんいじって真っ黒になって、修理に戻ってくるのが、私たちはうれしくて一生懸命やっています。そういう状況で、ずっと続けたいと言いながら、とにかく年齢が上がってくるので、元気にしていなきゃと言いながら頑張っています。できるだけこの活動を繋げていきたく

いなと思っているので、若いお母さんたちは忙しいと思いますけど、図書館と一緒に図書館が続く限り、できればこの活動を後に続けていきたいなと思います。

●利用者

今年、武蔵大学と日芸が2大学合同企画でいらなくなった洋服を集めて、それをリユースして学園祭で販売するという企画をされているみたいなんです。そういったものとか、こういう布の絵本ってすごい相性が良いのかなと思いました。

●利用者

そうですね。ただ、どうしても著作権などの話になると厳しいですね。

●図書館

もともとある絵本を布で作るわけなので、絵本に忠実に製作するように出版社から求められます。作家さんによっては嫌だという人もいらっしゃるみたいですし。ここで、皆さんに実際の布の絵本を紹介します。（布の絵本『いないいないばあ』を見せながら）これなんかとても可愛いでしょう？　ここからネズミが出てくるという。芸が細かいんです。

●利用者

私たち制作者側は、実はそういう工夫がしたいんですよ。ありがとうございます。

●利用者

今、居場所づくりというお話が出ましたが、千川通りに不登校の子どもたちやなかなか学校に行けない方たちの居場所として、そういう場所を設けています。そこにたくさんの棚がありまして、棚をいろいろな人に貸し出しして、例えば本を置く方もいたり、何か自分の得意なものをそこに置かせてもらったりもしています。そこに行くといろいろな方の棚から面白い企画が見えたりするので、図書館で居場所づくりということを思った時に、例えば不登校の子どもさんとかが自由に来られるようなスペースを作ってあげることがもし可能だったら、区としても非常にいい取り組みになるなというふうに思いました。例えば、今紹介された手作りの布の絵本などもそれで、学校には行けないけど、のめり込めるようなものがそこで提供されていたら、それに集中して取り組むとか、お友達をそこで作ったりとか、そういうこともできる環境づくりができるんじゃないのかなと思いました。区の施設としてそういう居場所があるというのは大きなことに繋がっていくのではないかと思います。個人では、今やっていらっしゃる方は不登校の子どもを集めるっていうことをしてますけれど、いろいろな区とか県のニュースを見ると、意外に大きな場所で、そういう施設を考えているところがあるっていう情報を見たことがあります。

●利用者

ニュースなどでも、そういう子どもたちを受け入れている施設を紹介したりしていますよね。工作が好きな人は工作をする、パッチワークが好きな人はパッチワークをして、それをボランティアの方が教えてあげている。11月に子どもたちが主催で、大々的なお祭りをするんですが、屋台を作るのも全部自分たちがやっていて、ほとんどが学校に行けない子ばかりなんです。友達が関わっているんですが、その時期はものすごく盛り上がって、子どもたちはそれに集中してやっています。

●利用者

これはお年寄りにも言えることですよね。特に男性、私の周りの高齢の男性はなかなか外に出ないと感じています。

●利用者

意外にも男性の方のほうが、教えることが得意な人が多く、ボランティアに来られている方も多いみたいです。そうすると、男性もやりがいができるし、子どもたちと話す機会にもつながっているみたいですね。

●利用者

定年退職された男性の方など、例えばここに本を読みに来るとか。
ここは、飲み物を飲んでも構わないんですか？

●図書館

館内では本が汚れることに配慮して、ペットボトルなどの蓋つきのものは持ち込めますが、飲んでいない時はカバンなどにしまってくださいになっています。ただ2階の飲食コーナーでは、お弁当を食べても良いし、飲み物を飲んでもいいことになっています。

●図書館

今は本屋さんでもカフェみたいなスペースがあって、飲み物を飲みながら、本を選べたり読んだりできますよね。図書館も将来的にはそういう感じになっていても良いのではないかと思います。

●図書館

今後、そのようになっていくのではないのでしょうか。自由に過ごせたほうが居心地良いですよね。ただ、職業病なのか、本を汚してしまった時はどうするのかなという心配もあります。

●利用者

女性より男性の方が家にこもっている人が多いから、図書館に通ってお茶を飲みながら本を読んだりするのもいいんじゃないかなと思うんですね。

●図書館

それぞれの詳しい事情はわかりませんが、当館にも毎日来られる男性利用者が何人かいらっしゃるって、朝刊の時間と夕刊の時間によくお見かけしますね。一人住まいだと新聞を取らなくなる方もいますが、図書館ではいろいろな新聞を取っているので記事の読み比べもできます。特にプロ野球の時期などは、スポーツ紙も3紙あるので、読み比べたら面白いかなと思います。

前に町会の方が言われていたのですが、図書館に来ているリタイアした男性が街づくりに関わってくれたら、どれだけこの街が良くなるだろうというお話でした。

ただ、そういう方々を束ねて引っ張っていくのは結構難しいかもしれませんが。図書館でもスマートフォン相談会というイベントを開催しているのですが、そこには男性も結構いらしています。

●図書館

当館では、スマートフォン相談会を月1回以上開催してまして、相談と交流も兼ねてでしょうか、毎月定期的に相談会に来られる高齢の男性利用者もいらしていますね。

●図書館

携帯ショップでの相談は、今予約制で、なかなか予約が取れなかったり、次の人のことを気にしたりするとゆっくり質問しにくいのですが、図書館の相談会は30分間まるまる自分のために相談員が対応してくれるので安心して質問できます。

それと子どもの居場所づくりに関してですが、小竹図書館では毎月第1金曜日の午前11時から午後1時まで赤ちゃんタイムを設けていて、会議室を開放して自由に赤ちゃん連れのお母さんたちに使っていただけるようにしています。図書館員が常駐して絵本のアドバイスをしたりしていますが、たまにそれだけでいいのかなと思う時があります。乳幼児のお母さんは子どもをちょっとだけ安心できる場所に預けて、自分の時間を楽しみたいという気持ちになるときがあるのではないかな、例えば図書館に来たら子どもを気にせずに、自由に本を手にとったりしたいのではないかと。そこで来年の3月、保育付きブックタイムというイベントを開催する予定で、そこでお母さん方の需要や要望を聞いてみたいと思っています。

●利用者

うちの施設では、1日一人の枠でお子さんをお預かりしていますが、毎日来る人がたくさんいて、いらしている方同士がそれぞれのお子さんの特徴とかも知っているのも、お母さんがちょっと手を離す必要がある時は、みんなで一緒に見てあげましょうという感じが

あります。

●図書館

少しだけ子どもを預けて図書館に行ってくるということはできるんですか。

●利用者

それはできないですが、例えばお母さんが、今日病院に行くので、9時半から12時半まで預かっていただけますかという、区の応援券を使って預けることができます。きっと、お母さんたちは、家で子どもと1対1っていうのが大変なんだと思うんですね。子どもがいても誰かとお話できたり、子どもがどこかに行っている、自分のところに必ず戻ってくるという環境が、ストレスが少しなくなるという部分なのかなと思います。

●図書館

図書館を自由に見て、自分の好きな本を選びたいと思っても、子どもがむずかりだしたら、もういいやと諦めてしまう保護者も多いのでは？ それを解消できたらいいなと思っていました。それと、先に赤ちゃんタイムの話をしたんですが、決まった時間にしか開催できないので、参加者が毎回一桁ぐらいしかいないのも悩みです。いつでも来ていいというようにできたら、また違ってくるのですが、なかなか難しいですね。また、当館では、赤ちゃんタイムやイベントなどに使える空間がこの会議室しかないのも課題です。この会議室は、通常、当館の本を使って調べものをするために開放しているので、「閲覧席として使いたかったのに、なんだ、今日はイベントをしていたのか」と言われたりすることもあります。

●利用者

図書館というのは静かに本を読むところというイメージをそろそろ脱却してもいいんじゃないかなと思います。

●利用者

先ほども話していましたが、若い人って時間がないじゃないですか。ユーチューブとかでも2倍速とかで見てしまう感じですよね。本の要約をしているユーチューブなどもありますが、例えばAIを使って気になった本を何冊も短縮して読めるようなことが、図書館に来ればできますよというサービスがあると、若い人たちが喜ぶのかなと思います。

本が好きで本を読むということからは外れてはしまうと思うんですけど、やっぱり本って学びがあるじゃないですか。学生さんなど特に、いろいろな本を読みたいけど、時間がないから結局読めなくなってしまうのだったら、そういうのも活用するのもありかなと思います。皆さん時間がないので、本来であれば図書館に来て心を落ち着けるっていうのは非常に大事なことだとは思いますが、それをなかなかやれる人が少ないというのが若者の図書館離

れなどに繋がっているのかな。図書館に来れば少しの時間でも本が見れると多少は違うんじゃないかなと思います。

●図書館

確かに大学生の利用は少ないように感じています。以前、日大芸術学部内にある図書館を見せてもらったことがあるのですが、とても立派でした。稀少本を含む専門書や一般書、映画などの DVD などたくさん所蔵されていて、そういう環境下にいる学生なので、ここまで来る必要があまりないのかも、とちょっと思いました。

●利用者

今、Instagramとか、X といったデジタル化が進んでいます。図書館ではそういったインスタとか X とかそういったものも始めているんですか。

●図書館

練馬区立図書館としては始めていますが、そこまで盛んかというと……。元々図書館業界は、個人情報流出することを危惧して、当初は SNS などを制限していた時期もありました。最近は、デジタルの時代なので、仕事上知り得た個人情報は絶対に書かないことを条件に個人利用する分には特に禁止とかはしていません。

●利用者

先日、商店街のデジタル化というテーマで、区役所で皆さんと交流する会があったときに、アナログだった商店街にデジタルに明るい方を一人つけていただいて、その商店街の中の動画を作ったりイベントを紹介したりとか、そういうものを Instagram で紹介するようなシステムを作ってくださって活用しているという話を聞いたときに、若い人たちにも関心を持っていただける取り組みでもあるし、デジタルというものにどんどんついていけなくなっていくのかなという認識が強くなりました。例えば図書館でも紙ベースでいろいろなチラシを出していて、うちでも図書館のチラシを貼りだすと結構見てる方が多いんです。通りがかりにご覧いただく方もいらっしゃると思いますが、やっぱり若いお母さんたちとか若手の学生とかのそういった方には、Instagram などをこれからどんどん普及させていかないと、そういう時代の人たちを取り込むっていうのは、また工夫が必要なのかなということを非常に感じました。

●利用者

Instagram じゃなくても練馬区の中でそういう情報を流すような SNS を作って、先ほど話にも出たスマートフォン講座とかで、こういうのをアプリにダウンロードして、こうすると紙でなくても見られますよという風にできそうですね。そうすると、チラシが全員に

行き渡らなくても、そのスマホを見るだけでも活用できるとか、そういったものにはなるのかなと思います。

●図書館

確かにそうですね。こういった図書館のチラシを全戸配布すると、すごい経費がかかるんですが、デジタルのツールを活用すれば、広報力が変わってくると思います。

●利用者

図書館だけに限らず、商店街でイベントをやりますといったことを練馬区の情報として、SNS とかができると、例えばインスタとかだったら不特定多数の人に見られるから嫌だっという方もいらっしゃると思うんですよね。なので、地域のことだけを発信できるものなどが作られるといいのかなっていう気もしますね。

●図書館

先ほども少し紹介しましたが、江古田キャンバスプロジェクトという西武鉄道と3大学の学生が江古田の街づくりを考えていくというプロジェクトがあります。8月、当館に西武鉄道のインターンシップ生として関東圏のさまざまな大学生が来られたのですが、その時のテーマが、「今後、江古田キャンバスプロジェクトをどのように進めていったらいいか？」でした。インターンシップ生20人ぐらいがいくつかのグループに分かれて、江古田の街を歩いて考えた成果を発表したんです。駅前をもっと明るくした方がいいとか、江古田の飲食店を利用したらポイントが貯まるようなアプリを導入するとか、レンタルの電動キックボードを設置してまち巡りをしやすくした方がいいとか、若い人らしい意見がたくさん出ていたのですが、もっとデジタルを活用しようという意見が多かったのが印象的でした。「動画を撮ってきました」とか「面白いお店がいっぱいあった」など、異なる大学の学生たちが集まって熱くなって意見交換していましたが、新しい視点を見つけたように感じて面白かったですね。

●利用者

娘がアメリカに行っていたので、向こうの大学の図書室に行ってみたんですが、夜12時までやっていて、夜10時頃に行ってもまだ学生さんが熱心に勉強しているんです。キャンバスも広いから、周辺は真っ暗ですよ。その中で図書室に行ったら、勉強している人がいるんですよ。びっくりしてしまいました。アメリカのミシガン大学だったんですけどね。現実的には日本では難しいですね。

●図書館

日本の大学も、夜10時までとか11時まで開館している大学図書館がありますね。試験前

とか資格の勉強をされる方は夜遅くまで使いたいようです。

●利用者

勉強してる人は、してるんだなと感心しました。

●利用者

小竹図書館は、30代40代ぐらいの仕事をされている方の利用者って、どんな感じですか？

●図書館

年齢層別には統計を出していないのですが、仕事が終わってから閉館ギリギリにいらっしゃる方や、土曜日や日曜日にしか来館できないという方は一定数いらっしゃいます。本の返却は、ブックポストが24時間開いています。

●図書館

本日、話題にもよく出ましたが、居場所づくりが上手な図書館など、ほかの図書館でいいなと感じたことがある方、何か情報などありましたら教えていただけますか。

●利用者

居場所づくりとしては、板橋の中央館はすごいなと思います。本当に綺麗でびっくりしました。練馬ですと、光が丘図書館が一番大きいと思って暮らしていますが、またそれとは違いますね。近くの区であれだけのものを作っているの、取り残されないようにと思います。例えば、子どもの読書推進についてももっと先を進んでいる区もきっとあるだろうし、今、練馬の中では多様な子どもたちへの読書推進とかを考えている最中なんですけど、自分たちの中でしか話せない現状なので、他の区や県とかと照らし合わせた時に、どのくらい充実したものになっているのかなと思ったりもしていますね。小竹図書館は板橋と区境だから、ここから板橋の中央図書館まで行かれる方もきっといらっしゃるだろうなと思うんですね。

●利用者

いま練馬も美術館と図書館を一緒に作ってますよね。

●利用者

貫井図書館は工事のために3年間閉館になります。ということは貫井の利用者さんで元気な方は違う図書館にきっと行くだろうなって思うんです。

そうすると貫井から近いとなると、春日町図書館、練馬図書館…、春日町が自転車で行けるというようなことで分散されていますが、小竹図書館も、元気な方としては利用エリアかな

って思ったりしているんです。その時にこの会議室の貸し出しはさっき館長もおっしゃったように、閲覧室にもなるわけですね。ただ貫井ってすごく登録団体が多いんです。ものすごい数なので、貫井の人たちで会議室貸してくださいとなった時に、練馬図書館もフロアがあったとしても、会議室が小さくて、私たちが借りている時もあともう5人も増えたら、ちょっといっぱいだねみたいな話をしています。だから会議室を求める方たちが、小竹にも来られる可能性があるのではないかなと少し思っています。それも実は広い意味で居場所だったりするんですよ。

●利用者

その工事に伴って閉館する図書館もありますが、そうすると利用者の方の状況も変わってきそうですね。同じ区内で近いエリアということで、小竹図書館を利用される方も増えるのではないのでしょうか。会議室の利用なども変わってきそうですね。

●図書館

練馬区立図書館では、今後、会議室の貸し出しなどが Web 上でもできるようになる予定です。ただ、その館のイベントがある時は使えないですし、営利目的は使用できないなど、条件はあるものの、会議室を使い方にとっては便利になるはずです。利用者の状況も変わってくると予想できますよね。

●図書館

近隣では、1 階がカフェになっていて、上にはワークスペースを設けている図書館もあります。アメリカの図書館は、本を読むもとの図書館としてのスペースと、例えばミシンが使えるワークスペースもあるなど、魅力的な空間がたくさんあって面白いなと思いました。そういう遊びのスペースもあるので、利用者は居心地が良さそうに感じるんですよ。図書館はちょっとハードルが高いと感じている人も自由に入ってきて利用したくなる。図書館って、入った時にここは居心地が良さそうか、そうではないとと、感じることはありませんか？ 当館も、第一印象で合格点がいただけるように、私たちも感じのいい図書館づくりを目指していかなければと話し合っているところです。

●利用者

私もアメリカの図書館に行った時に 1 週間に 1 回、図書館の中でコンサートをやっているのを見ました。防音設備がなくて、図書館の中でやっているから、全体に響いてみんな聞こえるんですよ。私はそれもいいのかなと思って聞いていました。

●図書館

音については、開館日だとやはり難しいですが、休館日にコンサートをやっているところも

あるので、検討したいです。

●利用者

ここは音大が近いからね。もう音大生あたりに来てもらって開催するのはどうでしょう。この間の土曜日良かったですよ。

●利用者

土曜日は何があったんですか？

●利用者

ハロウィンのイベントの中で江古田キャンバスプロジェクトの活動として、音大の学生さんたちが、演奏会を午後1時から5時ぐらいまでやっていました。

●利用者

何団体かが演奏して、金管楽器を中心に編成もきちんとされていました。学生さんたちがお話ししたり、披露できる場があるのはやっぱりすごくいいなと思いました。

●図書館

なるほど、面白そうですね。

さて、まだまだお話を続けたいのですが、そろそろ時間も迫ってきましたので、このあたりで終わりにさせていただきたいと思います。先ほども申し上げましたように、練馬区立図書館全体に関わるようなご意見がありましたら、光が丘図書館で利用者懇談会を11月22日金曜日10時から開催しますので、そちらでご質問いただけたらと思います。皆様からいただいたご意見は、今後の事業に生かして行きたいと思います。

本日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。